

# 第36期 中間報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成27年9月30日

証券コード: 7575

...for patient comfort.



**JL** Japan Lifeline

# 主要連結財務データ

## Financial Highlights

### 当上期決算のポイント

- 新商品導入によるリズムデバイスの売上高の増加
- 自社グループ製品の伸長による売上総利益率の改善
- 経費予算の執行の遅れにより営業利益は計画を上回る
- 投資有価証券売却益等の特別利益を計上

■ 第2四半期累計 ■ 通期

#### 売上高

(単位: 百万円)



#### 営業利益

(単位: 百万円)



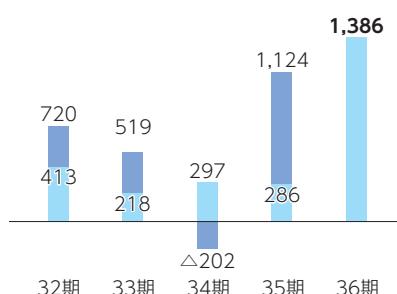
#### 経常利益

(単位: 百万円)



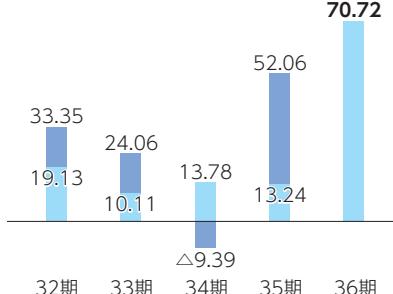
#### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位: 百万円)



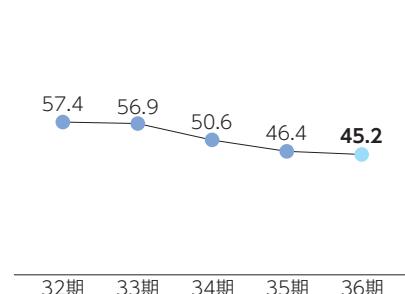
#### 1株当たり四半期(当期)純利益

(単位: 円)



#### 自己資本比率

(単位: %)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。32期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株あたり四半期(当期)純利益」を算定しております。

### ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当上期におきましては、自社グループ製品が好調に推移したほか、リズムデバイスにおける新商品導入による売上増が業績に寄与いたしました。

当社といたしましては、心臓循環器領域を専門とし、商社機能とメーカー機能を合わせ持つ強みを生かし、今後も企業価値のさらなる向上を目指し、事業に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



# Q

### 上期の業績はいかがでしたか？

**A** 当上期におきましては、オンリーワン製品をはじめとして自社グループ製品が好調に推移したほか、条件付きMRI(磁気共鳴画像)検査対応心臓ペースメーカを導入したことにより、リズムデバイスの売上高が回復基調に転じたことが、業績へ寄与いたしました。

また、利益面におきましては、収益性の高い自社グループ製品の伸長により売上総利益率が改善したほか、上期に予定していた新商品の導入に係る経費予算の執行が遅れていること等の要因により、販売費及び一般管理費が計画を下回ったこともあり、営業利益は前年同期実績を上回りました。さらに、投資有価証券の売

却益や小山ファクトリーに係る助成金を特別利益として計上したことから、最終利益段階におきましても大幅な増益となりました。

# Q

### 各品目の販売状況は いかがでしょうか？

**A** リズムデバイスにおきましては、条件付きMRI検査対応ペースメーカ「KORA100(コーラ100)」を本年3月に導入したことにより、前年同期実績を27.4%上回る売上高となりました。大幅な回復を見込んだ計画に対する進捗としては、若干の遅れがあるものの、第4四半期には心臓ペースメーカの次期モデルの導入を計画していることから、さらなる販売数量の増加に向け

て取り組んでまいります。

EP/アブレーションにおきましては、心腔内除細動システムの専用カテーテルである「BeeAT(ビート)」や高周波心房中隔穿刺針である「RFニードル」といったオンリーワン商品が心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として販売数量を伸ばしました。さらに、アブレーション治療の安全性を高める新たな自社製品として、本年4月に食道温モニタリングシステムを導入したことから、専用カテーテルである「Esophastar(エソファスター)」の販売数量が増加いたしました。

外科関連におきましては、昨年7月より販売を開始したオンリーワン製品である「J-Graftオープンステントグラフト」が伸びました。またインターベンションにおきましては、従来取り扱っていた他社商品から、初の自社製バルーンカテーテルである「canPass(キャンパス)」への切り替えが進んだことから収益性が改善いたしました。



食道温モニタリングシステム

左: Esophastar モニター

右: 専用カテーテル Esophastar(先端部)



**Q** 下期に導入を予定する新商品について教えてください。

**A** ICDにおきましては、従来品に比べ50%以上の長寿命化を達成した「PLATINIUM(プラチニウム)」の販売を本年11月に開始するとともに、心臓ペースメーカーにおきましても、全身のMRI撮像が可能な新商品「KORA250(コーラ250)」の導入を第4四半期に予定しております。

また、人工弁関連におきましては、耐久性を高めるために抗石灰化処理が施された生体弁「CROWN PRT

(クラウン・PRT)の販売開始を12月に予定していることから販売数量の増加に向けて拡販に努めてまいります。

さらに、インターベンションにおきましても、心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla FlexII(フィギュラ・フレックスII)」の販売開始を第4四半期に予定しております。これは、先天的に左右の心房を隔てる壁に穴が空いている疾患に対し、カテーテルを用いて低侵襲に治療を行う医療機器であり、当社が国内に初めて導入し販売を行っていた実績を有していることから、同商品につきましてもその普及に向けて取り組んでまいります。

Q

### 腹部用ステントグラフトの契約について教えてください。

A 当社は、本年9月にエンドロジックス社(米国)と腹部大動脈瘤治療用ステントグラフトの日本国内における独占販売契約を締結し、同社製品である「AFXステントグラフトシステム」の来年1月の販売開始を目指して導入準備を進めております。

ステントグラフトは、カテーテルを用いて経皮的に大動脈瘤の治療を行う医療機器であり、患者様の身体的な負担を抑えた治療が可能なることから、近年症例数が急速に増加しております。当社では従来、胸部の大動脈瘤を治療する商品のみを取り扱ってまいりましたが、今回、腹部用の商品がラインナップに加わることにより、胸腹部のステントグラフトをトータルに提供できる体制となります。

当社は、自社グループ製品として人工血管やオンリーワン製品であるオープンステントグラフトを開発・製造するとともに、このステントグラフトのように海外の優れた医療機器を国内へ導入することにより、医療現場のニーズに広く応え、患者様に最適な治療が提供で

きるよう今後も努めてまいります。

Q

### 通期見通しについて教えてください。

A 下期におきましては、自社グループ製品を中心として販売が引き続き堅調に推移することが見込まれることや、リズムデバイスや外科関連等における新商品の導入により、売上高は概ね本年4月に開示した当初計画の水準を達成するものと見込んでおります。

また、利益面におきましては、上期に引き続き自社グループ製品の伸長による売上総利益への寄与が見込まれるものの、販売費及び一般管理費におきましては、上期に未執行であった商品導入関連の薬事費用等のほか、自社製品の拡充を図るための開発関連の費用の発生を新たに見込んでおります。

以上のことから、通期見通しにつきましては、本年4月に開示いたしました通期業績予想数値からの変更はありません。

## ■ 2016年3月期通期業績予想

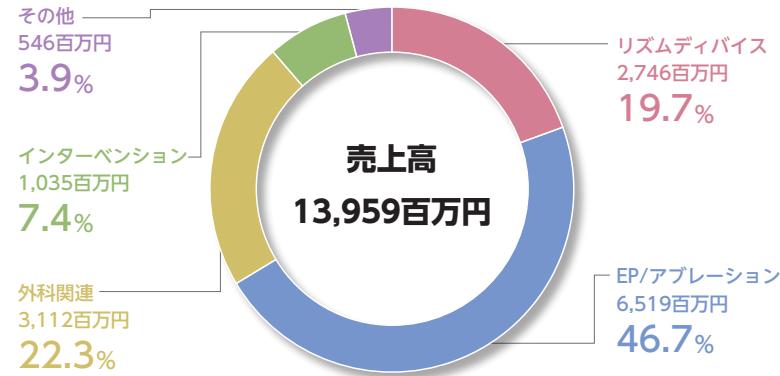
(2015年4月30日付)

売上高	29,584百万円(前期比15.1%)	▲
営業利益	2,785百万円(前期比51.0%)	▲
経常利益	2,829百万円(前期比38.9%)	▲
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,171百万円(前期比93.1%)	▲

# 品目別売上高

## Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、ガイドワイヤー、バルーンカテーテルおよび人工血管等を販売しております。



### リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比  
**19.7%**

#### 主要取扱品目

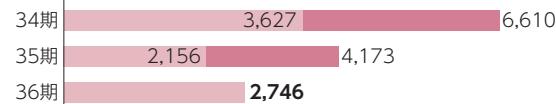
- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカにおきましては、本年3月より販売を開始した条件付きMRI (磁気共鳴画像) 検査対応ペースメーカ「KORA100」が寄与したことにより、販売数量が増加いたしました。  
またICD関連におきましては、競争環境が厳しく、前年同期に比べ販売数量が減少いたしました。  
以上により、リズムデバイスの売上高は27億4千6百万円 (前年同期比27.4%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



### EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比  
**46.7%**

#### 主要取扱品目

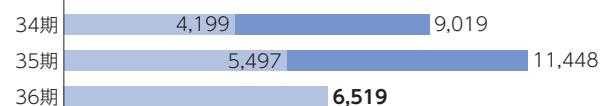
- EP (電気生理用) カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 高周波心房中隔穿刺針



心腔内除細動カテーテル

EPカテーテルにおきましては、オンリーワン製品の心腔内除細動システムの専用カテーテル「BeeAT」や、本年4月に導入した食道温モニタリングシステムの専用カテーテル「Esophastar」が伸びました。  
また、オンリーワン商品である高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」につきましても安定的に販売数量が増加いたしました。  
以上により、EP/アブレーションの売上高は65億1千9百万円 (前年同期比18.6%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



### 外科関連

血管や心臓の弁を置き換え  
治療する医療機器を扱う

売上高構成比  
**22.3%**

#### 主要取扱品目

- 人工血管
- オープンステントグラフト
- ステントグラフト
- 人工心臓弁
- 人工弁輪



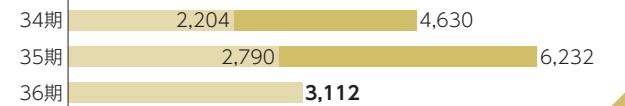
オープンステントグラフト

人工血管関連におきましては、昨年7月に販売を開始したオンリーワン製品である「J-Graftオープンステントグラフト」や、人工血管が引き続き伸びました。

人工弁関連におきましては、保険償還価格の引き下げの影響があったことから、売上高は減少いたしました。

以上により、外科関連の売上高は31億1千2百万円 (前年同期比11.5%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



### インターベンション

心筋梗塞等を治療する  
カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**7.4%**

#### 主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル



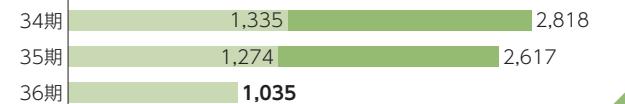
バルーンカテーテル (イメージ図)

バルーンカテーテルにおきましては、自社製品の「canPass」および仕入商品の「Pantera LEO」へ、主力商品の切り替えが進んだことにより、前年同期に対し利益率が改善いたしました。

その他の品目では、貫通用カテーテルの「Guideliner」が伸びたものの、前期末に一部商品の取扱いを終了したことにより、売上高は減少いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は10億3千5百万円 (前年同期比18.8%減) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



### その他

連結子会社で販売する  
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比  
**3.9%**

#### 主要取扱品目

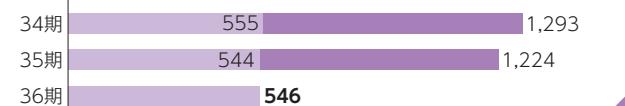
- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は5億4千6百万円 (前年同期比0.3%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)

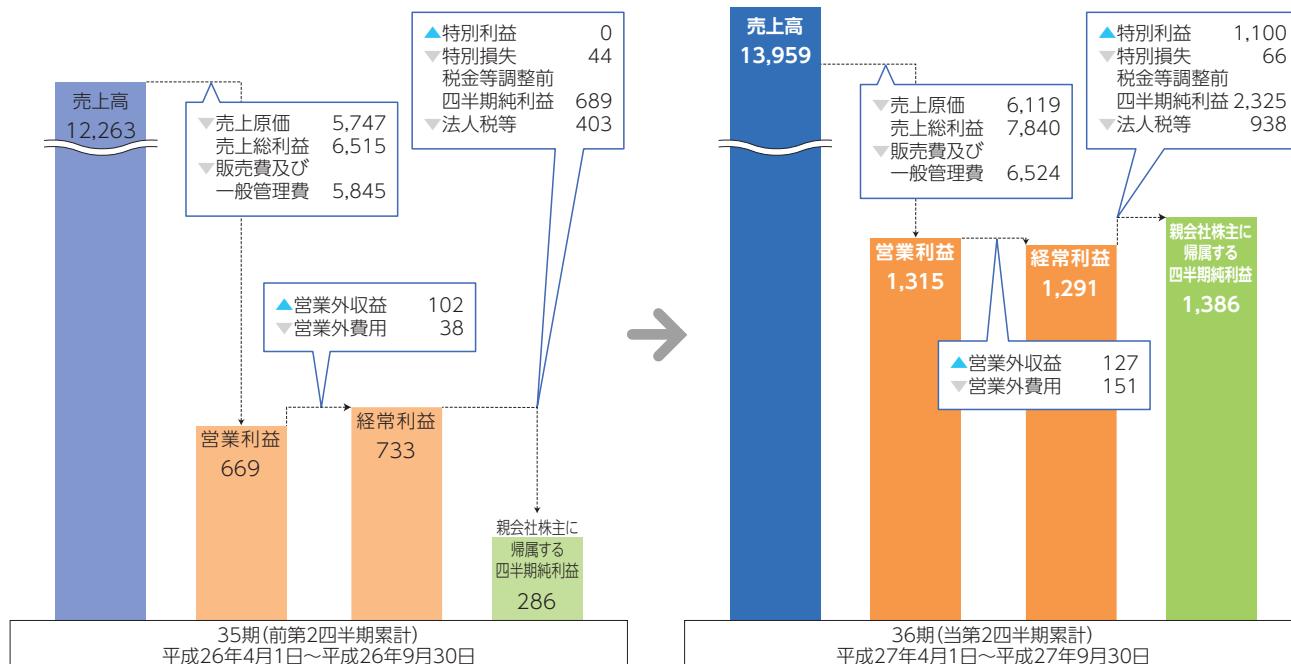


# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## ■ 四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



### 営業利益

オンリーワン製品を中心に収益性の高い自社グループ製品が伸長し、売上構成比が上昇したことに加え、製造原価の低減により、売上総利益率は前年同期に比べ3.1ポイント改善いたしました。その一方で、新商品の導入に伴う治験費用や検査費等の増加により、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ増加したことから、営業利益は13億1千5百万円(前年同期比96.4%増)となりました。

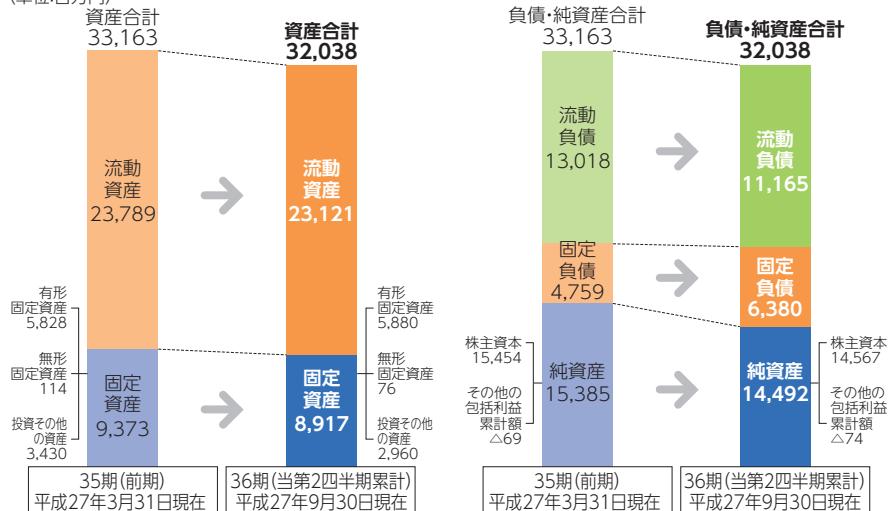
### 親会社株主に帰属する四半期純利益

受取利息及び為替差益等の営業外収益を1億2千7百万円、自己株式取得に係るシンジケートローン手数料等を営業外費用として1億5千1百万円計上、また、投資有価証券売却益10億2千8百万円、小山ファクトリーに係る助成金7千2百万円等を特別利益として計上した一方で、子会社工場の閉鎖に伴う固定資産除却損6千2百万円を特別損失として計上したこと等から、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億8千6百万円(前年同期比384.7%増)となりました。

決算のポイント

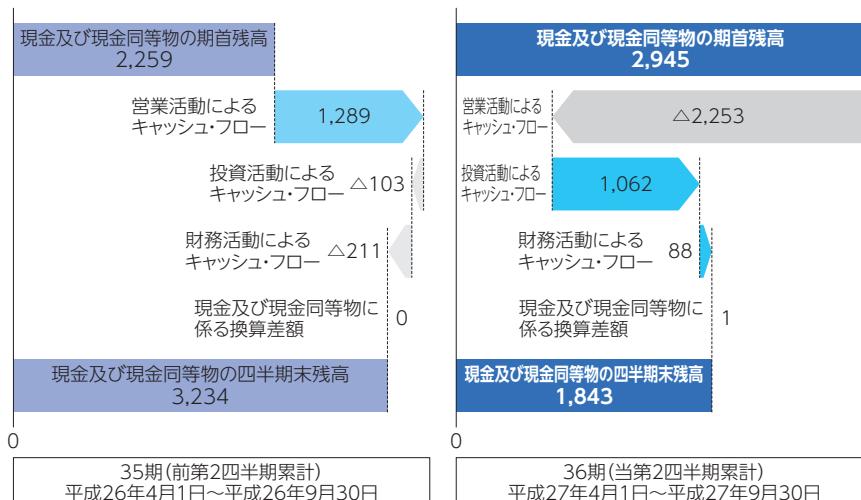
## ■ 四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



## ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



### 決算のポイント

#### 流動資産

たな卸資産が19億2千1百万円増加した一方で、未収入金の減少を主たる要因として、その他が19億2千6百万円、また、現金預金が6億9千5百万円減少したこと等により、流動資産は前期より6億6千8百万円減少し、231億2千1百万円となりました。

#### 流動負債

支払手形及び買掛金が29億7千3百万円減少した一方で、借入金が増加したことから、流動負債は前期末より18億5千3百万円減少し、111億6千5百万円となりました。

#### 固定負債

自己株式公開買付け資金として長期借入金が増加したことにより、固定負債は前期末より16億2千1百万円増加し、63億8千万円となりました。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が16億3千5百万円増加した23億2千5百万円を計上したのに対し、たな卸資産の増加による支出が19億1千6百万円、仕入債務の減少による支出が29億9千4百万円となったこと等により、22億5千3百万円の支出となりました。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入が13億2千5百万円増加した13億4千5百万円となったこと等により、10億6千2百万円の収入となりました。

# 会社概況

## Corporate Data

### ■ 会社概要

(平成27年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結800名 単体600名
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司 株式会社ハートブレーン

### ■ 役員

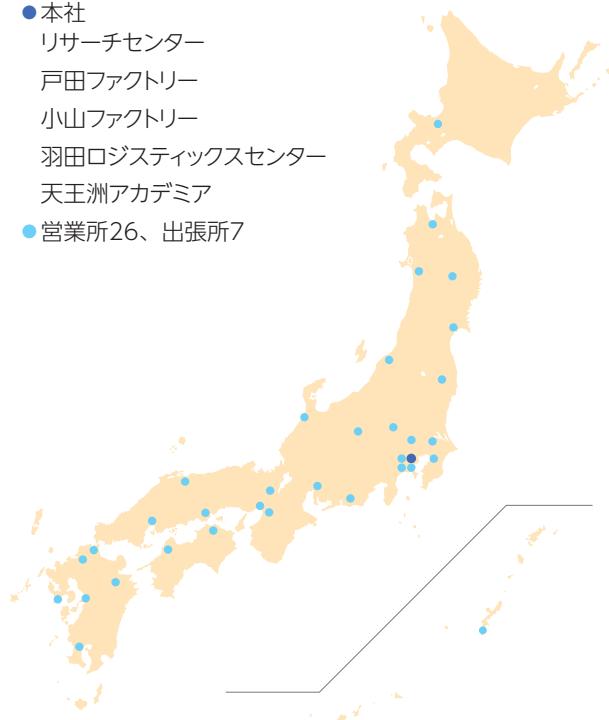
(平成27年9月30日現在)

取締役会長 増本 武司	取締役 山田 健二
代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 渡辺 修
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	社外取締役 佐々木文裕
常務取締役 高橋 省悟	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 黒沼 孝之	社外監査役 中村 勝彦
取締役 野上 和彦	社外監査役 浅利 大造

### ■ 事業所

(平成27年10月1日現在)

- 本社  
リサーチセンター  
戸田ファクトリー  
小山ファクトリー  
羽田ロジスティックスセンター  
天王洲アカデミア
- 営業所26、出張所7



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



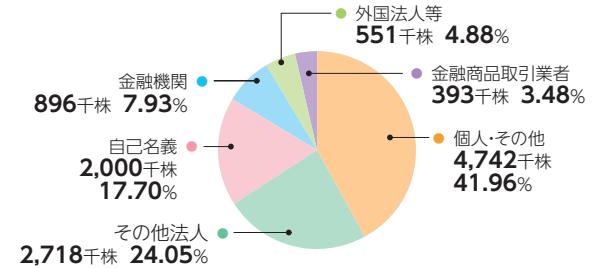
### 株式の状況 (平成27年9月30日現在)

発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	3,483名
大株主	

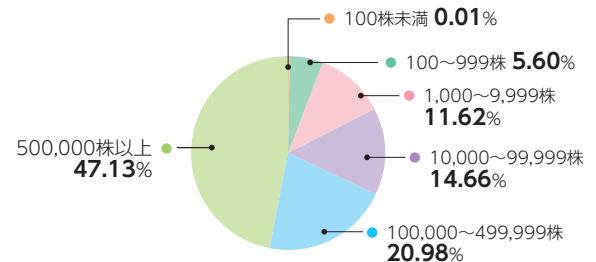
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	1,520	16.34
KS商事株式会社	1,096	11.78
片山晃	710	7.64
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	362	3.89
鈴木啓介	331	3.56
増本武司	307	3.31
日本証券金融株式会社	208	2.24
日本ライフライン従業員持株会	171	1.85
五味大輔	150	1.61
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	150	1.61

(注) 持株比率は、自己株式(2,000,626株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布

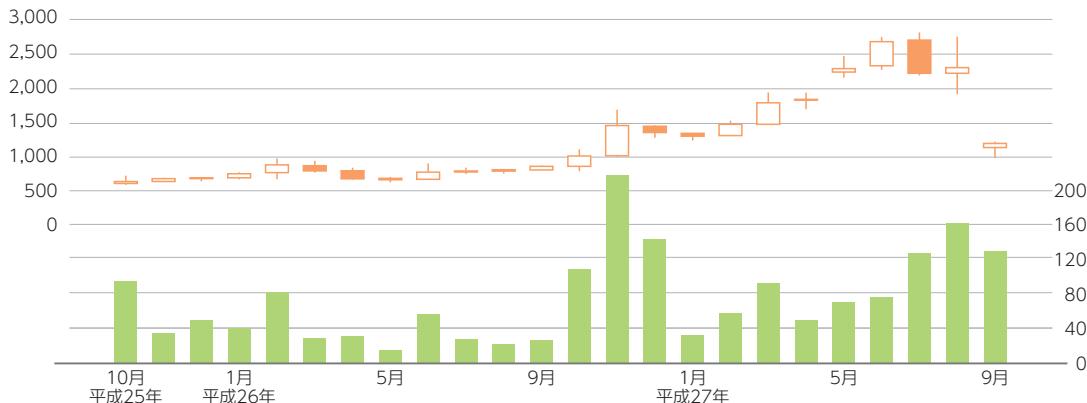


### 所有数別株式分布



### 株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
  - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## 日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。